



神門をくぐり、御本殿へ進む初詣三詣の人々

宗 像

2月祭事暦

- 毎月1-15日つぎのみ月次祭
午前10時～
高宮祭
第二宮・第三宮祭
引き続き
宗像護国神社
月命日祭(1日)
遙 拝(15日)
午前11時～
繪社祭
浦安舞 奉奏(1日)
豊栄舞 奉奏(15日)
- 3日 午前10時
節分祭
於=祈願殿
※祭典後豆打ち式
- 11日 午前11時
建国祭

平成十八年 正月総括

三ヶ日で62万人が参拝

元旦	23万人
二日	21万人
三日	18万人
合計	62万人

年末・年始は大晦日より元旦にかけて雨模様との週間予報に、年明けの天候が心配されたが杞憂に終わり、初日と共に平成十八年を迎え、絶好の日和に恵まれて、三ヶ日は近年にない大勢の参拝者で境内は人波に溢れた。

昨年の師走は観測史上初めての長期間に及ぶ寒気に見舞われ、豪雪被害等も報道される中、当地方も例年になく寒い日が続く迎春準備も大変であった。そのような状況にも拘らず二十九日には地元元田島地区の氏子総代・協力会の方々の御奉仕により各所の装いも整えられ、大晦日には年越しの大祓式・除夜祭を斎行、平成十七年も恙無く幕を閉じた。行く年に別れを惜しむかのような暫しの静寂も、午後十



今年には丙戌の歳。十二支の中では最も我々人間と親しんで来た動物である。その付き合いは、約一万年前に遡る今日の犬の原種が狼などから完全に分化した時点からだそうである。

その当時の遺跡には、人と犬との生活の営みが目に浮かぶ様に刻まれ、専門家の間でも大変興味深い研究対象だと聴く。

他の家畜より深い関係の犬は、人によく慣れ忠誠心が強く、これ迄私達人間を外敵から守ってきた友とも言うべき存在である。

昨年末、北九州市のロボット開発企業テムザック社が、ロボット・キヨモリの完成奉告を兼ね当大社に参拝された。

今後、人形ロボットの開発は大いに進み、やがて社会の中に融け込むという。それも、テレビアニメの戦闘ロボなどでは無く、高齢化社会に対応した介護用としての未来だそう。

これは、やがて介護から人が解放されてゆくと共に、雇用を奪う危険性をもはらんでいる。

人と犬が長年に亘り築いて来た関係をロボットとも築けるかどうか、新時代を迎えるにあたり私達は考えねばならない。(D.S)

神具・装束 結婚式場調度品

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31
電話 福岡(092)651-9456番

本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入
電話 (075)341-3341(代)～4番
(075)343-3341番

井筒

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567



午前零時の開門を待つ人々



開門と同時に駆け込む参拝者

時を過ぎると永年の重苦しい霧囲
 気を脱却し仄かな光明を感じつつ
 も、今年こそ確かな運氣隆昌の感
 触をと、期待に胸を膨らませた人々
 が三々五々参集。
 同十一時前には祈願殿前の
 大駐車場はもとより第二・
 第三駐車場も
 全て満車とな
 った。閉ざさ
 れた神門前
 は二基の篝火
 が紅蓮の炎を
 揺らめかせ、
 漆黒の浄闇を
 紅く染める中、
 輝ける新年の
 到来を今や遅
 しと待ちわび
 る参拝者が、
 心字池に懸か
 る太鼓橋を越
 え長蛇の列を
 なした。

また当大社へ
 の県道も参拝
 車輛で身動き
 の取れない状
 態となり大渋



元旦、開門後の神門前

滞となった。
 平成十八年元旦午前零時、新春
 の到来を告げる太鼓の轟きと共に
 開門、一瞬にして宗像大神の御神

前は参拝者で埋め尽くされた。
 本年一年も幸多き年にとひたす
 ら手を合わせ祈る老若男女の姿は、
 いつもの年と比べると何となく活
 気に漲っているよ
 うであり、拍手の
 音が止む間もなく
 鳴り響いた。

神札・御守や、
 破魔矢・福迎え等
 の縁起守を授与す
 る各授与所、福み
 くじ授与所、地元
 総代・協力会の皆
 様方に御奉仕頂い
 た神酒授与所にも
 次から次へと参拝
 者が押し寄せ、例
 年にも増す賑わい
 であった。

更に宗像大神降
 臨の地と伝えられ
 る高宮祭場への参
 拜道に竹燈を灯し
 ご案内をさせて頂
 いたが殊のほか多
 くの方が参拝され
 荘厳な神域の雰囲気
 に感銘を受けた
 ようで、年の始ま
 りに気持ちも新た



竹燈でライトアップされた「鎮守の杜の道」



正月ライトアップされた「高宮祭場」



昨年から行われている「竹燈祈願」



本年より「高宮」にも授与所を設置しました

にされた様子が印象的であった。またご家庭で或いは車輦にお祀りされ、一年間御守護頂いた古い神札や御守を納める古札授与所では、巫女が丁寧を受け取る姿に、改めて神札、御守の意義と大切さを実感したようであった。

一方新年の祈願祭も迎春と同時に斎行され、本殿では恒例により九州旅客鉄道株式会社代表取締役社長石原進氏以下幹部社員五十名

参列のもと新年一番祈願祭を斎行、交通安全、業務安全・繁栄、海上安全が祈念された。また儀式殿では家内安全、無病息災、商売繁盛

を、祈願殿では本年一年の交通安全を願う人々の祈願祭が執り行われ、祈願者へ大神様の御神慮を賜るべく祈りが捧げられた。

頭は大変混雑した。二日、三日も家族連れや友人達を主とする大勢の方々にご参拝頂き、四日以降は仕事始めに伴い、会社や各種団体



元旦午前零時、開門直後の本殿前

新年を寿ぐ祭典は、四海を照らす初日を浴びながら、元旦午前七時総社地主祭、同九時歳旦祭を斎行。皇室の御安泰、国家の平穩と隆昌、氏子崇敬者・国民を守護し給い更なる幸福と繁栄を祈念した。二日には新年祭を、三日には元始祭を斎行。三日間の祭典に於いて今年一年が年明け同様、素晴らしい年となるよう御加護を願い奉仕した。

昨年の元日は午前三時過ぎから午前中に掛けてやや落ち着き見せたが、本年は終日参拝者の波が途切れることなく続き、二日未明に亘るまで社

新年を寿ぐ祭典は、四海を照らす初日を浴びながら、元旦午前七時総社地主祭、同九時歳旦祭を斎行。皇室の御安泰、国家の平穩と隆昌、氏子崇敬者・国民を守護し給い更なる幸福と繁栄を祈念した。二日には新年祭を、三日には元始祭を斎行。三日間の祭典に於いて今年一年が年明け同様、素晴らしい年となるよう御加護を願い奉仕した。



古い御守・御札納所も定着してきました



本殿授与所の賑わい



初詣参拝の人々で混雑する御本殿前



表参道の賑わい

福みくじ授与所の賑わい

の参拝が続いた。八日、九日の連休には成人を迎えた若人が晴れ着姿で参拝、彩を添え境内も一層華やいだ雰囲気となった。

三ヶ日合計で六十二万人、参拝車輛十五万四千台という過去最高の初詣参拝者を数えた本年、大きな障害や事故なく皆様方にご参詣頂けたのも、雑踏警備に、参拝車

輛誘導にと御配慮、御尽力頂いた宗像警察署、並びに宗像市消防団団長以下幹部役員と、地元第十一分団役員の皆様方、更には、年末・年始から十日までの長期間御奉仕頂いた地元総代・協力会を始め関係各位の皆様方の御支援、御協力の賜物と深く感謝申し上げます。



連日満車の第一駐車場

献米奉告祭齋行

正月の賑わいも落ち着きを見せ始めた一月十三日、小雨の中宗像・福津両市内の氏子総代多数が参列

し、献米奉告祭が齋行された。この神事は、当大社の氏子区域である宗像・福津両市の、氏子の皆様から寄せられた新穀を御神前に御供えし、昨年の収穫を感謝すると共に、今年五穀豊稔、無病息災、一年の平穏を祈る祭典で宗像大社氏子会員総出の神事である。



神島宮司(左)と氏子奉幣使を御奉仕された前田誠氏

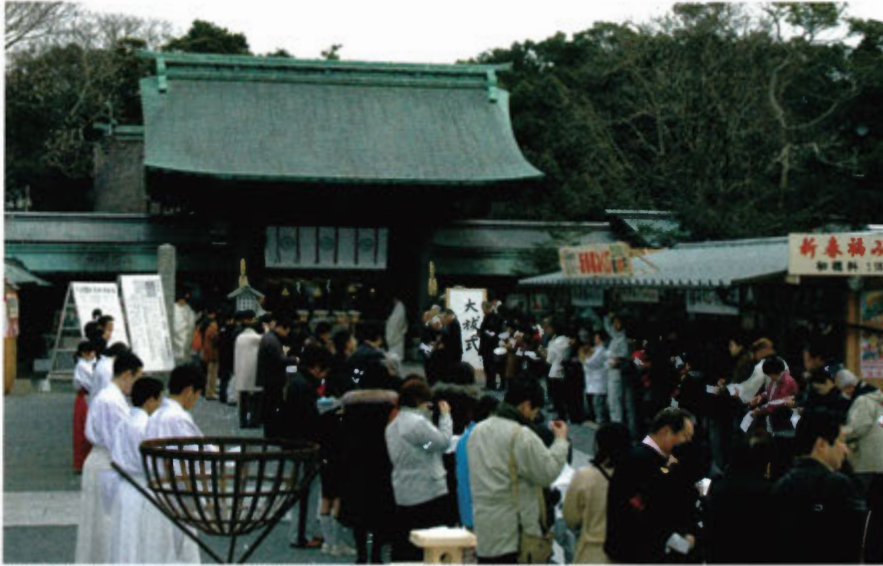
祭典では宗像市陵厳寺の前田誠氏が、氏子会を代表し「氏子奉幣使」として御奉仕された。前日から当大社に斎泊精進潔齋をし、齋服を着装して祭典に臨まれ、無事に氏子奉幣詞を宗像大神の御前で奏上、大役を見事に果された。祭典終了後には、氏子会役員を永年お勤めいただいた方(十年以上)の表彰式

年越しの大祓神事・除夜祭

大晦日午後三時より、神門前で年越しの大祓神事が、続いて本殿で除夜祭が斎行され、新年を清々しい気持ちで迎えようという多くの参拝者で賑わった。

大祓式は、七月三十一日とこの十二月三十一日の年二回行われていくが、人身の健康、農作物の豊作を祈る七月を「夏越の大祓式」、一年の罪・穢を祓い、清々しい気持ちで新年を迎えようという十二月を「年越しの大祓式」と呼んでいる。

大神の御加護に感謝し、皇室・国家の繁栄、世界の恒久平和、氏子崇敬者の皆様方が清々しく新年を迎えられることを祈念し、平成十七年の諸祭儀は全て滞り無く終了、神門は閉じられた。



年の瀬も押し迫った大晦日にもかかわらず、多くの参拝者が参列されました

迎える準備が整った境内に参拝者が続々と詰め掛け、高向権宮司が「大祓詞」を奏上、続いて参列者各人「切麻」で祓い、「祓物」に息吹を吹きかけて切り裂き、罪・穢を祓い清めた。引き続き、本殿で除夜祭が執り行われ、今年一年戴いた宗像



神職の差し出す「祓物」を切り裂き、息吹を吹きかける参列者

が行われ、下記の四名の方々に神島宮司より感謝状と記念品が贈呈され、参列した氏子会同志から温かい祝福を受けた。

表彰式後には、清明殿で「鏡開き」が行われ、一同新しい一年を清々しく過ごせると大社を後にした。

尚、ご奉納いただいた献米は、日々の日供祭をはじめ諸祭典の神饌として御供えし、皆様方の安全と繁栄を御祈念致しております。



巫女による「浦安舞」

平成十八年献米奉告祭

氏子奉幣使

前田 誠 (宗像市陵厳寺)

宗像大社氏子会

永年勤続者表彰

安部照生 (宗像市河東)

村田政夫 (" 鐘崎)

石橋 悟 (" 鐘崎)

丸井 定 (" 大島)

(順不同敬称略)



表彰を受ける氏子会永年勤続者の面々

平成十八年

筑前大島中津宮の正月

師走に入り日本列島は大寒波に見舞われ、正月を前にして大島の漁業者も出漁できない日々が続き心配された。しかし年末には穏やかとなり、大晦日から新年も晴天に恵まれ新年を迎えるにあたり中津宮の神門前には開門を待つ人々

の列が並んだ。

午前零時、淨暗の中に庭燎の赤い炎が揺らめく境内に太鼓の音が響き、翼賛会員の奉仕により刻々に開門。村内氏子を始め正月を故郷で過ごすという里帰りした人々が先を競い神前へ進み、敬虔な祈りが捧げられた。



中津宮の御社頭

神前には大島内外の漁家・農家よりの巨大な鰯をはじめ海の幸・野の幸が供えられた。社頭では正月縁起物の破魔矢、一刀彫などが授与されると共に、毎年恒例の「新春福みくじ」が沖・中両宮翼賛会員の奉仕により授与された。「福みくじ」では宗像市の(株)城山家具(社長寺田修)及



び宗像農業協同組合大島支所より特別協賛を賜り授与所前は長蛇の列となり、二時間程度ではほぼ完売した。また境内では沖・中両宮奉賛会のご奉仕と巻網船団の宮地丸組、春日丸組、沖栄水産の鰯、及び地の遠藤利男様からの野菜提供により「開運大鰯鍋」が本年も催され約三百食が振る舞われた。初日の出が昇る頃の海上は朝風で、玄界灘の彼方に観える四塚峰より静かに黎明の時を迎え、輝く初日で境内が明け初めた定刻午前七時に歳旦祭を斎行。沖・中奉賛

会員を始め島民が参列する中、本年の国家・皇室の弥栄と島民・国民の幸福が祈念された。翌二日も晴天に恵まれ、恒例の成人式は昨年の宗像市と大島村の合併に伴い、宗像市による大島での成人式は出来なくなつたものの、正月に合わせて帰郷した島内出身の新成人の為に区長会、父兄等の尽力により本年も中津宮での成人祭が行われ、十九名の若者が久しぶりに顔を合わせ懐かしさと笑顔で活気溢れる中、無事祭典を終了した。またこの日は三十三才・四

十一才・四十四才各々の厄除・厄晴の同年仲間祈願祭も執り行われ多くの参拜者で賑わいを見せた。三日には元始祭並びに宗像漁協大島支所願主の大漁祈願祭が斎行され、沖・中両宮奉賛会、漁業関係者が参集し皇室の弥栄と海上安全・大漁満足が祈念された。終了後には社務所にて直会が行われ今年の豊漁に期待しながら盛り上がりを見せた。かくして新年の各祭典は天候に恵まれながら沢山の島民のご協力により無事終えることが出来た。

福津市の福間浜



(続)

浜の寄物

200

いしい ただし

昨年十二月に珍らしく二度も雪が降った。日本列島は寒さと雪に震えあがった。東北、北陸、山陰

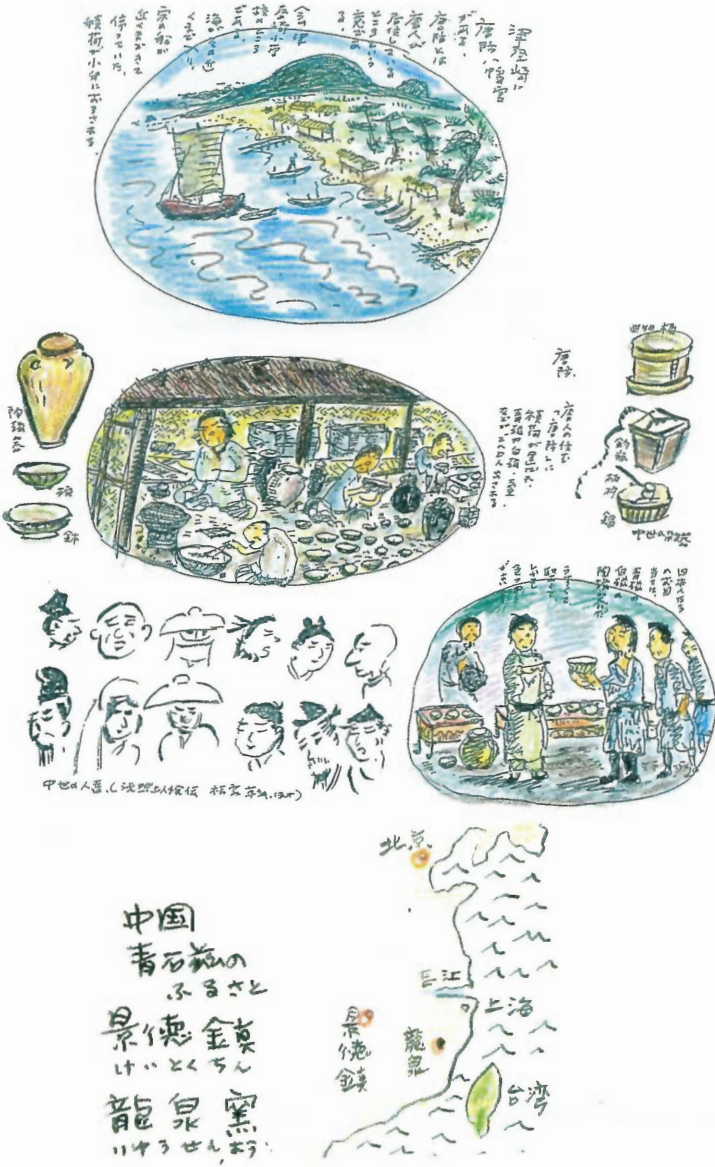
地方では四米近い雪が積もった。連日テレビやラジオは大雪のニュースからはじまった。そんな大



寒波の影響だろうか、玄界灘沿岸はウスバハギ(皮剥)が大量に漂着し、海岸はウスバハギ拾いで賑わった。ウスバハギはカワハギの中では大きく、四〇〜五〇センチほどある。白身で刺身、鍋物、干物にしても旨い。

福間浜で拾っている人を見ていたら「やるよ」と言って大きなもの二匹をもらった。夜は刺身と鍋物になっていた。さて昨年九月十七日、快晴に恵まれて、古賀市の自然史・歴史講座のメンバー四十名は、西鉄津屋崎駅に集合し、津屋崎小学校「在自唐坊跡展示館」を見学。金比羅神社では船絵馬を見て、星ヶ岡団地を抜けて、宮地嶽神社へ、宮地嶽古墳を見学後、解散した。開館する九州国立博物館に展示される国宝の出土物があるので、その前

に出土した古墳の姿を見ておけばという考えであった。津屋崎小学校の「在自唐坊跡展示館」は以前にも紹介したが、唐坊とは唐、中国、坊は居住地の意であり、平たく言えばチャイナタウンがあった。展示館にも展示してあったが、十二、三世紀頃の青磁や白磁片がある。なかには器の底部に「網」と読める字も残っている。網主など組織を示す字とされる。在自唐坊跡の展示館にたつて、図のような風景を描いてみた。



第五三四回

宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メット



宗像市 池田 森龍子

握力の弱まりし手に出刃の傷あまた付きたる粗板重し

(評) 祖母から母、母から作者へと引きつがれてきた厨事を守る主婦の悲しみと、加齢の悲しみが二重写しされた一首。

宗像市 大島 杉田禮子

久々の出漁に海のさま問えばぼそりと応ふ「のた」が強しと

(評) 「のた」は風の無い日の大波のこと。この一首にも不漁に気落した漁夫と作者の悲しみの姿がある。

福津市 在自 佐々木和彦

それぞれのビルに人等の入りゆきて駅からの流れほそりてゆけり

(評) 博多のラッシュアワーを少し過ぎた時刻か、或は地方の中都市のラッシュの刻か、いずれにしてもここにはアンニュイな雰囲気があったよっている。

福津市 若木台 野間精一

蜘蛛の子がサラダの上に降り来しを捕へて妻は語りかけたり

(評) 小さな蜘蛛にさへ声をかける妻、それを見守る夫。二人きりながら互いにいたわり合っている物静かな食事時である。

宗像市 田久 巻桔梗

フィナーレの手をしながらひろげたる舞姫に似る一文字菊

(評) 宗像大社菊花展の詞書のある一首。三〇〇鉢の菊花のなかからこのような菊を見つけた作者に敬服。丁寧な敘し方がいい。

宗像市 東旭ヶ丘 天野鈴子

屋根に雪積みし列車が遠ざかる師走半ばの海沿ひの駅

(評) 結句は原作の「ローカルの駅」を直したかどうだろうか。景が具体化し、読む側が容易に作者と一体化し共に追体験出来るのでは。寒々と立つ作者の姿が浮んでくる。

福津市 光陽台 香月照子

病院の予約時間を気にしつつ降りやまぬ雪車窓に眺む

(評) 天野作品がやや傍観的な詠み方に対し、これは雪に弱い南国に住む作者のいらだちの気持を前面に出している。

宗像市 大井 木原ふさ子

四つ塚は茫漠として影あらず立冬けさを黄砂のふれり

宗像市 田野 森甲子

いつこより来る鶯百余まき餌を取り合ふさまを息呑みて見る

福岡市 南区 井田有久衣

山茶花の繁みに残る昨夜の雪淡陽をうけて次第にとけゆく

宗像市 日里 石松弘次

魂の入力受けしロボットが二礼二拍手し義経演ず

宗像市 日里 大和美由紀

しなやかな動きを見せて歩きをり画面に写るロボットアシモ

宗像市 鐘崎 安永久子

声立てて笑ふ事あり独りいてテレビコントにすくわれており

福津市 中央 池浦千鶴子

吹き溜る落葉いろいろそのままに暫く置かむ道の端なれど

うきは市 浮羽町 向則正

わが祖母の髪は鳥の濡場色夢に出てきてその髪ひかる

宗像市 光岡 白土凌一

雪降りて車のろろ人走る小供よろこび犬も喜ぶ

選者詠

うつつらと錆の吹きいつ正月の瓣切ると研ぎ終へたる出刃に
二人にて暮らせば老の手力男命広口瓶のジャムの蓋開け
河沿ひに冬日浴びをり昼は古い夜は若者のものとしペンチが



宗像大社歌会 俳句作品集(五〇九)

宗像市 東郷 田中 憲象

浦人の一路明るし松の内

宗像市 光岡 佐藤 純一

初時雨人も心もそわそわと

宗像市 日里 花田いつ枝

辻売りの口上ばかり雪罹

編集後記

大晦日の日中、初詣参拝の皆様を受け入れる準備が完了し、ほっとしながら頭をよぎったのが、「これだけ準備して、本当に出来るのだろうか？」です。毎年ですが、直前の感じ(状況)を覚えておらず、あまりにも人影の少ない静か過ぎる境内に、段々心配になりました。▼大祓式・除夜祭後一旦自宅に戻り、午後十時頃出社しても、駐車場はポツリポツリと何台か車が停まっている程度でした。▼ところが十一時には満車状態。神門前は開門を待つ方で埋め尽くされ、日中の心配など吹く風。開門一〇分前から五分前三分前と進められるカウントダウンに身震いするほどの緊張感を味わいながら、午前零時開門。▼あとは授与所もトイレも参道も人々。周辺道路はバンク状態。社務所には問い合わせの電話が鳴り響き、結局三が日で六十二万人の方が参拝されました。▼現在も県外からの方が高齢の方など混雑を避けようとする方々を中心に、平日でも多くの方が参拝されています。▼周辺道路が渋滞しているにも関わらず、あれだけ多くの方が押し寄せることを、あらためて不思議に思いました。それ以上にうちの神様の御稜威(御神徳)恩寵(ごんくわん)要するに御利益パワーと、それを求める人々の多さを、まだまだと感じる正月でした(M.O)

宗像大社社務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 伊藤佳和
編集人 大塚宗延
制作 ジーエータップ
印刷 ゼネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円